

歴史下華鏡

88回

陸軍歩兵第四十四連隊

平和資料館・草の家

研究員 馴田 正満

高知市朝倉の高知大学の敷地には元陸軍歩兵第四十四連隊の兵営があった。今は構内に当時の建物は全く残っていない。だが西に隣接する旧大蔵省印刷局の敷地には、連隊の弾薬庫と講堂、それに弾薬庫を囲む土堤（盛土）の一部が残っている。ここもかつては連隊の敷地だったからである。これらの構造物の一部は、朝倉駅前から国立高知病院の間の道路から見ることができる。

敗戦後、兵営には連合国軍が駐留した。弾薬庫は倉庫として利用されたりしく、内部の木製の扉には担当軍曹の名前や開閉時刻等を書いた英文が残っている。白い外壁には、鋭い刃物で刻んだ「N. J.」「C. L. O」などのイニシャルらしき落書きもある。

土堤は爆発事故時の被害予防と侵入阻止のためのもので、巡回監視のため上部に上がるコンクリート製の階段が残っている。その傍らには「首つり松」と呼ばれた赤松の切り株もある。厳しい訓練に耐えられなかったのだろうか。



●旧弾薬庫の建物

戦前、県内で徴兵された男子のほとんどが、この連隊で二年間現役に服した。そして、日露戦争、シベリア出兵、日中戦争、太平洋戦争と、ここから出兵し、中国大陸や南の島で多数の兵士が戦死した。高知県民にとってここは「慰霊の地」といっても過言ではない。

学術調査の結果、弾薬庫、講堂とも連隊創設時の一九〇〇年前後に建設されたもので、歴史的に貴重であると判断された。幸い高知県が敷地の購入、建造物の保存へと動いているようだ。戦後七十四年、戦争の悲劇を伝える「ひと」は少なくなった。これからは「もの」が証人になる時代である。今後、どう建物が保存されるか、戦争の記憶が継承されていくのか、注目していきたいと思う。



●土堤に上がる階段

市長コラム

内和の外順

高知市長 岡崎誠也

よみがえるまち

日本のまちづくりのスタイルを一変させた森ビルの元社長、故・森稔氏の興味深い文章があります。

「龍になれ、雲、おのずから集まる」

龍は理想、志、夢の象徴であり、この言葉は既存の壁に挑戦する支えだった。

批判を恐れず、己の信念を貫く勇気を龍からもらい、金色に輝く雲に助けられて、いまがある。

森稔

2008年のインタビューで、武者小路実篤の言葉を引用しながら語ったものですが、坂本龍馬の生涯をほうふつとさせる内容で、印象深いです。

故・森社長は2012年に亡くなっているが、そのまちづくりの手法は、誰もがまねできないものでした。

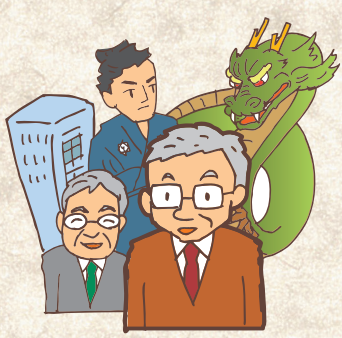
例えば、六本木にある代表的な森ビル「アークヒルズ」の構想では、「街をつくりかえる」

という大胆な発想のもと、多くの地権者と約20年間にわたり、協議を重ねながら、さまざま施設で構成する「新しい街」として再生させています。

約20年間にわたり、一人一人の地権者と精力的にまちづくりについて粘り強く協議を重ねるそのパワーに圧倒されます。

アークヒルズでは、もともとあった本来の土地の形状ままで、大胆につくり変え、その上に「新しい街」をつくりあげるパワーがすごい。

まさに、そこに住む人々の熱き思いが結集して、まちがよみがえっていくということを改めて強く感じます。



広告

高知県司法書士会

公益社団法人成年後見センター・リーガルサポート

所属の司法書士です

よつば司法書士法人

介護福祉士・終活トータルガイド・心託コンシェルジュ在籍

親族の財産管理、施設とのやりとりを後見人が代行できます。親族間でのサポートが困難になったり、将来的に不安のある方はご相談ください。

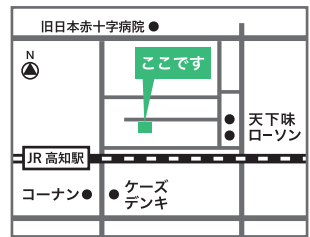
成年後見 (初回の相談は無料)

ご相談詳細は

088-826-2080

または

よつば司法書士法人 高知 検索



高知市栄田町3丁目6番15号
営業時間 / 9:00 ~ 18:00
定休日 / 土・日・祝・年末年始
駐車場 / 有り